

# (岩本直樹) 論文内容の要旨

主 論 文

## **Determination of the Subset of Sjögren's Syndrome with Articular Manifestations by Anticyclic Citrullinated Peptide Antibodies**

関節症状を呈するシェーグレン症候群患者と抗 CCP 抗体についての検討

共著者：岩本直樹、川上純、玉井慎美、藤川敬太、有馬和彦、荒牧俊幸、川尻真也、一瀬邦弘、蒲池誠、中村英樹、折口智樹、井田弘明、江口勝美

(Journal of Rheumatology • 36 巻 113-115 2009 年)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻  
(主任指導教員：江口 勝美教授)

### 緒 言

関節リウマチ (RA) とシェーグレン症候群 (SS) は共に関節症状を呈し、IgM-リウマトイド因子 (IgM-RF) も高率に陽性となるという共通点があり、しばしば鑑別に困難を要する。関節症状に注目した場合は、大きく違うのは RA では破壊性の関節炎を呈するが、SS では関節破壊は来さないということは明らかとなっている。しかしながら、RA の鋭敏な診断マーカーである抗環状シトルリン化ペプチド抗体 (抗 CCP 抗体) については SS における意義は未だ明らかとなっていない。陽性率においては我々の以前の研究では 52 人の SS のうち 5 人に抗 CCP 抗体が陽性であった。しかしながら関節症状と抗 CCP 抗体の相関については検討していない。そこで、今回我々は日本人の SS 患者において初めて、SS の関節症状と抗 CCP 抗体の関連について検討した。

### 対象と方法

当院通院中の 117 人の SS の患者について検討した。SS は American-European Consensus Group 基準で診断した。117 人の SS 患者で 15 人が RA の経過中に SS の診断基準を満たし骨 X 線検査上骨びらんを呈していた。今回我々は SS の関節症状と自己

抗体の関係について注目したためこの 15 人は今回の研究の除外対象とした。また他の 15 人は通院しなくなったため除外した。残りの 87 人を対象に今回の研究を行った。関節症状は今回、朝のこわばり、関節痛、関節腫脹のいずれかを訴えていた例を関節症状有りとし、診療録を参照に検討した。87 人のうち 61 人は関節症状を呈していた。これらの 87 人は初診時は全例原発性シェーグレン症候群（原発性 SS）と考えられていた。しかしながら 14 人は SS の診断後に 1987 年のアメリカリウマチ学会による RA の診断基準を満たし、RA を合併した 2 次性シェーグレン症候群（2 次性 SS）と分類された。この 14 人はすべて手指および足趾の骨 X 線検査を施行されたが、初診時は骨びらんを呈していなかった。これらの 87 人について、エントリー時に抗 SS-A 抗体、抗 SS-B 抗体、IgM-RF、抗 CCP 抗体、血清 IgG を測定した。

## 結 果

2 次性 SS の 14 人はすべて関節症状を呈していた。原発性 SS のうち 47 人が関節症状あり、残りの 26 人は関節症状を認めなかった。抗 SS-B 抗体、IgM-RF、血清 IgG については関節症状の有無にかかわらず有意差を認めなかった。しかし、抗 CCP 抗体については原発性 SS では関節症状を認める群にのみ 3 人陽性であったのに比べ、関節症状を認めない群ではすべて陰性であった。また、上記の 3 人も骨 X 線検査では骨びらんを呈していない。RA を合併した 2 次性 SS においては 14 人中 10 人が抗 CCP 抗体が陽性であった。

## 考 察

RA に比べ SS の関節炎は骨破壊を来さないと考えられている。一方、抗 CCP 抗体は RA においては骨びらんと関連している。しかしながら、最近のコーカサス人における SS と抗 CCP 抗体の研究では、RA を合併した 2 次性 SS での抗 CCP 抗体陽性例も骨びらんを呈していないという報告であった。これはコーカサス人での検討であり、アジア人においては同様の検討はなされていない。今回のわれわれの研究が日本人 SS で初めて SS の関節症状と抗 CCP 抗体について検討したものである。今回興味深かったのは、本邦症例でも抗 CCP 抗体陽性の RA 合併 2 次性 SS が骨びらんを呈さなかったというところである。抗 CCP 抗体は様々な分子に対する抗体であり、RA を合併した 2 次性 SS での抗 CCP 抗体と骨破壊を伴う RA での抗 CCP 抗体は違う分子に対する抗体なのかもしれない。今回の研究では対象が 117 名と少なかったものの、先に述べたコーカサス人での検討との違いは、我々の検討では抗 CCP 抗体陽性の原発性 SS はすべて関節症状を呈したという点である。コーカサス人では関節症状を伴わない抗 CCP 抗体陽性の原発性 SS も認めていたが、抗 CCP 抗体は RA の発症に先立って陽性となることもあり、この違いを明確にするためには今後の前向き検討が必要と思われる。